

3

地元愛溢れる新民謡 「音頭」は地域を作る

加藤良一 男声合唱団コール・グランツ 2024年5月15日

民謡交響詩『坂東栗橋感懐』[※]は、昭和12年(1937年)頃に作られた「栗橋草刈り唄」、「小舟を出せば」、「泊り舟」の3曲に加え、昭和48年(1973年)に作られた「栗橋音頭」の4曲をもとに作編曲されました。これらの民謡はいずれも「新民謡」と呼ばれるもので、古くは関所のまちとして栄えた栗橋の人びとが、気軽に唄ったり踊ったりして愛郷心を高める目的で制作された歌曲といえます。

※ 令和6年(2024)3月17日作曲：同年12月21日男声合唱団コール・グランツ
創立35周年記念コンサートにて初演予定

。。。 研究レポート「人と地域を結ぶ音頭の研究～埼玉県久喜市の新民謡～」。。。

「新民謡」は、大正期後半(1920年頃)から昭和期にかけて全国的に広まったもので、地元の名所風景、都市風俗、名物・名産品などを盛り込み、民謡を限りなく模倣しているが、音楽的には必ずしもすべてが民謡的であるとは限らず、いわば「民謡調」とでもいうものです。

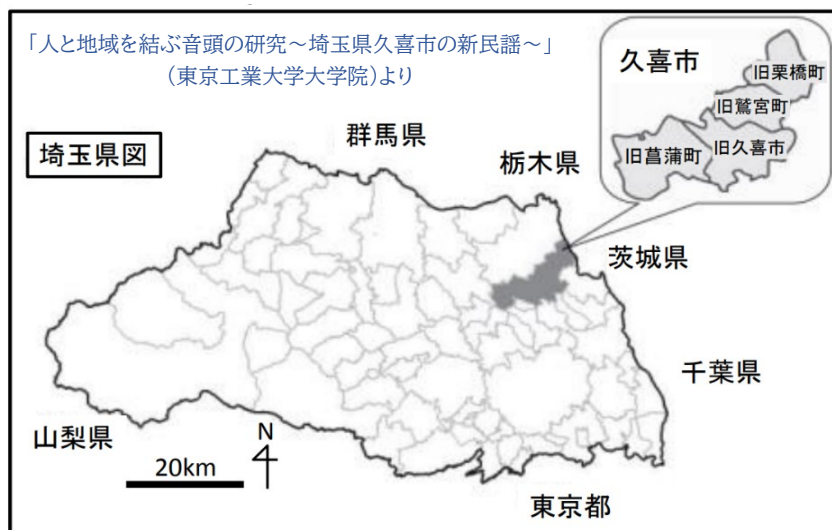
新民謡はふつうの流行歌とは異なり、そもそも全国展開を狙ったものではなく、基本的にはあくまで該当地域に限定しています。ただし、なかには例外的に流行したため全国に知られるようになった曲もあります。「東京音頭」、「ちゃつきり節」、「武田節」、「天竜下れば」などがそれです。

久喜市における音頭について研究したものとして、東京工業大学の平成15年(2003年)「時空間デザインプログラム」における研究レポート「人と地域を結ぶ音頭の研究～埼玉県久喜市の新民謡～」があります。

この研究は、地域における新民謡、あるいはそれを利用した盆踊りが、人々と土地とのつながりにどのように寄与していくのかを明らかにすることを目的とした音頭の研究です。日本の伝統芸能離れが進む

現代、地域伝統の一つである新民謡や盆踊りが今なお息づいていることの意味を見出すことには大きな意味があると訴えています。

久喜市は、平成22年(2010年)旧久喜市を中心として、旧栗橋町、旧鷲宮町、旧菖蒲町の4地区が合併して誕生しました。



同レポートは、アンケートおよびヒアリング調査により、久喜市内の小学校の多くが、運動会でそれぞれの音頭の盆踊りをを行っていることを以下のようにまとめました。

- 「栗橋音頭」 栗橋小、栗橋西小
- 「南栗橋音頭」 栗橋南小
- 「鷲宮音頭」 桜田小、上内小
- 「新久喜音頭」 本町小、江面第一小、江面第二小、久喜北小、太田小、久喜東小、清久小、青毛小
- 「菖蒲音頭」 菖蒲小、小林小、栢間小

久喜市合併以前の4地区それぞれにおける音頭と人々のかかわりは、以下のような状況でした。

❖ 音頭と人々のかかわり

◎ 栗橋地区(旧栗橋町)

栗橋地区ではお祭りや栗橋音頭保存会の活動などが活発に見られた。栗橋音頭の歌詞に出てくる関所址周辺や、南栗橋音頭の歌詞に出てくる大落とし周辺で、それぞれの音頭が踊られる場面を把握することができる。

◎ 鷲宮地区(旧鷲宮町)

鷲宮地区ではあまり活発なかかわりは見られなかった。

◎ 久喜地区(旧久喜市)

久喜地区では多くの小学校が新久喜音頭を運動会で踊っている。久喜に住む子供たちの多くが新久喜音頭を踊ることができるということであり、非常に興味深い事実である。また、新久喜音頭の歌詞に出てくる甘棠院や天王院のまわりの小学校やお祭りで音頭が踊られている。

◎ 菖蒲地区(旧菖蒲町)

菖蒲地区では、お祭りや、福祉施設、体育祭など、音頭と人々に関わる機会が多種多様であり、これには菖蒲民踊レクリエーション連盟の活動が大きく影響していることが分かった。また、菖蒲音頭の歌詞に出てくる星川や見沼用水付近で、菖蒲音頭が活発に踊られていることが分かった。

■ 4地区のまとめ

平成22年(2010年)の久喜市合併以前の旧4地区はそれぞれの地区の名前の音頭による、人々と音頭のかかわりの場を提供している。また、歌詞に出てくる場所付近で人々と音頭のかかわりが活発に行われているケースがあることが分かった。

❖ 音頭とかかわる人々の意識

栗橋地区のアンケート、ヒアリング調査および栗橋南小学校児童へのアンケートの結果からつぎのようなことが明らかになりました。

- 音頭は身体で覚えるものであり、身体的経験である。
- 音頭は同じ地域に住む人同士をつなげたり、地域と自分自身を一つにすることができる。
- 音頭は地域に根付くものである。
- 音頭は親しみやすく地域の中で活用される。
- 地域への愛着を持つには地域と自分との距離を近づけることが大事である。
- 人は音頭により、地域を好きになることができる。

同研究レポートは、以上のようなことから次のようにまとめられています。

- 埼玉県久喜市には、平成22年(2010年)久喜市合併以前の、地域的色彩を強く反映した音頭が存在し、市内の多くの場所で人々との関わりを持っている。
- 音頭の歌詞に登場する場所の周辺では、人々との音頭の活発なかかわりが見られるケースがあり、このことから、このような場所は今も昔も地域社会にとっての重要な場所であると考えられる。
- これらのかかわりは、久喜市の人々にとって地域的色彩の強い身体的経験となる。
- 人々は、音頭を踊り、地域性を身体的に経験することで、自分自身と土地のつながりや、人と人との結びつきを獲得する。
- このような人と土地、あるいは人と人とのつながりの集合体こそが地域を形作るものであり、すなわち音頭は地域を作る。

。。。 失われゆく地域のつながり 。。。

筆者が関所のまちといわれる栗橋の中の一角に整備された新興住宅地に住みついてかれこれ半世紀が過ぎようとしています。ここは東京のベッドタウンのような位置にあるため、全国各地から引っ越してき

た人たちが集まっています。そんな事情から盆踊りでは日本中の音頭が踊られてきました。しかし、時代とともにその勢いも弱まり、当初に比べるとかなり淋しくなってきたことは否めません。

近隣の古くからある町内でも同じように、盆踊りを踊る夏祭りが廃れています。高齢化による担い手の減少に加え、若い人たちがあまり関心を示さなくなっており、また、広い会場が確保しにくくなってきたことも影響しているのでしょうか。これは全国的な傾向といえるかもしれません。

民謡交響詩<坂東栗橋感懐>が、新しい形で関所のまち栗橋に遺された文化を再び蘇らせ、地域の活性化につながることを願ってやみません。



[Back](#)

[坂東栗橋感懐TOPへ](#)

[Home](#)

[HOME PAGEへ](#)